

剣道を通して学んだこと

徳島県

佐古剣道クラブ

小学5年 平野大翔

ぼくは、二年生の夏に剣道を始めました。

剣道を始めたときは、人前でしゃべることが苦手で、みんなと仲良くなるまでにかなり時間がかかりました。だから剣道を始めて一番しんどかったことは、大きな声を出すことでした。

何度も先生に指導されながらけいこをしました。すると、少しずつ声が出てくるようになりました。そして、大きな声でけいこをすることが当たり前になりました。苦手なことも意識して、けいこを続ければ、出来るようになり、もっと頑張ると当たり前になり、そして、自分のやることに自信が持てるようになることを学びました。

また、礼節も教わりました。先生からの指導で「礼節を大切にしてください」とよく言われます。試合で勝つとうれしくて気分が良くなり堂々とクラブのみんなのところに帰って来ることが出来ます。負けるとくやしくて、少し態度が悪くなり、相手に礼をちゃんと出来なかったことがありました。その後、先生から「剣道の試合は対戦する相手がいる、審判や多くの人に関わってくれてはじめてできるんじゃない、勝っても負けてもそれは変わらない、どんなときも忘れたらあかん」と指導され、対戦相手や審判の先生方のところに謝りに行ったことがあります。ぼくは大変なことをしたんだなあと思って、家に帰って剣道について調べました。

剣道は勝負の場においても「礼節を尊ぶ」ことを重視する。お互いを敬う心と形の礼法指導によって、節度ある生活態度を身につけ、「交剣知愛」の輪を広げていくことを指導の要点とする。ということが分かりました。少し難しくて母さんに聞くと、「剣道は勝負をすることで相手のことをもっとわかり合えるようになって友情が深まる。そして、自分の生活を反省することが大切じゃない」と教えてくれました。そんなことを考えるようになってからは、ぼくは知らない人にでも、きちんとあいさつが出来るようになりました。学校の授業でも、大きな声で発表出来るようにもなりました。今では、学校の先生の手伝いもはずかしがらずにすすんで出来るようになりました。

最近、けいこのある日は、早く行って準備をしたり、けいこが終わった後は、片付けを一番に終わらせるようにがんばっています。すると、みんなも僕と同じように早くけいこに来るようになってきました。けいこが始まるまで、みんながタイヤ打ちをしています。自分が良いと思うことをすることで、みんなの行動も良くなっていくことがうれしくなってきました。ふだんの生活でも、良いと思ったことは進んでチャレンジするようになりました。今年チャレンジしたことは、学校の宿泊訓練で校歌を歌うとき、指揮に立候補した

ことです。だれも手をあげず、なかなか決まらなかったので、思い切って手をあげました。指揮をすることに決まってからは、休み時間に先生と一生けんめい練習をしました。本番はとてもきんちょうしたけれど、練習どおりうまく出来ました。

ぼくが剣道を通して学んだことはたくさんあります。やる前からあきらめず、真面目に取り組むと少しずつ出来るようになっていくということ、そしてそのことが自分の自信になって、こわがらずにチャレンジ出来るようになることです。また試合では団体戦もあって、自分のことだけではなく、仲間といっしょに戦うことで、自分の役わりを考えて仲間のために戦うことの難しさと大切さを学びました。ふだんの生活のこともありすぎて、剣道のすごさがどんどん分かってきました。

来年は、六年生になります。みんなといっしょにがんばって強くなれるように、最上級生としてチーム全員のことを見ながら、家族や先生、保護者の皆さん、他のチームの先生方や仲間達みんなに感謝して、剣道を続けていきたいと思っています。